

登録コード	EKD03900	開講年度	2026				
授業科目	高度実践研究とリフレクション					担当教員	谷塚 光典 他
英文授業名	Advanced Educational Practical Research and Reflection II					副担当	伏木 久始
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	1年生
講義室			授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】		
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ						
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力				課題追究に先立ち、実践校・実践クラスの実態を把握・分析することができる。 「授業・学級づくりチーム演習」および他の授業での成果に基づき、自らの課題を省察的に検討することができる。 自らの課題に関連する文献や情報を収集し、実践と関連づけて検討することができる。		
(2)授業の概要	本授業では、原則として担当教員との個別指導により、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。 担当教員が小学校・中学校での実務経験を活かして講義を行います。						
(3)授業計画	第1回：課題の追究(1) - 実践クラス・実践校の実態把握 - 第2回：課題の追究(2) - 実践クラス・実践校の実態分析 - 第3回：課題の追究(3) - まとめ - 第4回：課題の追究(4) - 実践クラス・実践校における長期目標・短期目標の設定 - 第5回：課題の追究(5) - 実践クラス・実践校における実践計画 - 第6回：課題の追究(6) - 実践クラス・実践校での実践経過 - 第7回：課題の追究(7) - 実践クラス・実践校での実践の振り返り - 第8回：課題の追究(8) - 「授業・学級づくりチーム演習」の内容に基づく実践の振り返り - 第9回：課題の追究(9) - 各授業の内容に基づく実践の振り返り - 第10回：課題の追究(10) - 文献等に基づく実践の振り返り - 第11回：課題の追究(11) - 実践クラス・実践校関係者の意見聴取に基づく振り返り - 第12回：課題の追究(12) - 途中経過における結果 - 第13回：課題の追究(13) - 途中経過における考察 - 第14回：課題の追究(14) - 次年度課題追究に向けて（中間報告会へ向けて） - 中間報告資料 受講者の実践研究領域や興味関心等に応じて内容や計画を変更することがある。 期末試験の有無 無（最終レポートの提出をもって充てる）						
(4)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次の通りである。 ・授業の達成目標 ～ に関わる省察ポートフォリオの作成状況:50% ・授業の達成目標 ～ の到達度を確認する中間報告資料 :50% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(5)履修上の注意	・授業は、主担当教員・副担当教員と日程設定をして行う。 ・授業アンケートの依頼がある場合にはご協力をお願いします。 ・教育実習等で欠席する場合には個別に代替措置を講じますので、必ず十分に前もって相談してください。事後の対応には応じられない場合があります。（学部授業を科目等履修する場合には、教職大学院の授業が優先されます）						
(6)質問,相談への対応および連絡先	担当教員への質問・連絡方法は、各自担当教員と相談して決定すること。 なお、開設授業科目一覧掲載の「担当教員のオフィスアワー」を参考にすること。						
(7)成績評価の基準	「卓越している」 : ねらいに示した ～ のすべての項目の視点から分析および検討している。 「かなり上である」 : ねらいに示した ～ のうち2つの項目の視点から分析および検討している。 「やや上にある」 : ねらいに示した ～ のいずれかの視点から分析および検討している。 「水準にある」 : 何らかの方法で分析および検討している。						
(8)事前事後学習の内容について	・授業にあたっては、各授業における学習内容が自らの課題とどのように関連するかをまとめておくこと。 ・課題に関連する文献や情報を収集しておくこと。 ・この授業は45時間の学修を必要とする内容です。従って、30時間以上の時間外学習が必要となります。						
【教科書】	指定しない。						
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。						